

「東日本大震災 2 周年シンポジウム」

シンポジウムのご案内および一般講演(アブストラクト)の募集

平和なときが長く続き人々の生活が徐々に変化するなかにおいても、人は昨日より今日を、今日より明日を良くしようと議論し努力を続ける。このような平常時のゆっくりとした議論ではなく、大きな災害、大きな戦争のあとには特に、宗教、文化、文明、科学、技術など多くのことについて盛んに議論が起こり、次に進むべき方向を見つけようと、人は努力する。

2011 年 3 月 11 日に東日本大震災を受けた我々は、平和なときのように淡々と日々を過ごしているわけにはいかず、国土のあり方、産業のあり方、人々の暮らし、科学や工学の役割などについて真剣に議論し、これからの方向を見定めなければならない。

岩手県から宮城県につながるリアス式海岸が津波に弱いことは一般にも知られていたことであり、仙台の南から福島県に至る沿岸についても、古文書の記述・地質調査などにより、大きな津波があったことを知っていた人たちも多い。今後、大きな地震に襲われるといわれる静岡県から高知県、宮崎県にいたる地には大きな揺れだけではなく、巨大津波が襲うことが指摘され、過去に大きな津波に襲われたことも知られている。ただ、このような地に多くの人々が住み、産業が営まれている。

数十年に一度、数百年に一度のように極めて稀ではあるが津波に襲われる危険性のあるこれらの地に、住宅を建て、まちを作り、鉄道や道路を敷き、工場や発電所を作ってきたのは我々の先輩であり、仲間である。これは島国日本の持つ大問題と言え、政治の問題、自己責任などと他人事のように言うことはできず、建築にかかわる多くの人々に大きな責任があり、考えていかねばならない。

明治の文明開化とともに、我々の先輩は欧米の建築文化・建築技術を輸入し、150 年をかけて今の日本をつくってきた。この間に、建築に関する技術は進展してきたが、それでも大きな地震災害を何度も受けてきた。寺田寅彦の言うように、文明の進化とともに災害は激化するから、過去の経験だけにもとづいていたのでは、将来の防災・減災は簡単には達成できない。しかし、地震災害を受けるたびに、過去の技術の至らないところを改良しつつ、次に向かうことが重要である。

このたびの大震災から得た貴重な経験は、①原子力発電所の破壊と地震・津波に対する安全性の再確認、②住宅地を襲った広域の液状化と造成地の崩壊、③剛性の足りない鉄骨構造の揺れ、④骨組そのものに損傷はなくても天井、内外壁などに生じる大きな損傷、⑤上水道・電気・ガス・下水道などのライフラインの被害、⑥ライフラインと建築物の接続部分の損傷による建築物利用の中断、⑦エレベーター・エスカレーターの損傷・故障による建築物の利用不能、⑧耐震補修されていない RC 構造の被害、⑨下部 RC 造・上部鉄骨の体育館の多くの被害、⑩超高層建築に生じた長い揺れによる恐怖感、⑪サプライチェーンの破壊による産業活動の中断、⑫数百万人の帰宅困難者、⑬東北地方の歴史的建築物の破損、など多くある。

さらに、大きな問題は、⑭エネルギー問題、⑮大都市集中の危険性、⑯少子高齢化時代にますます進む地方の過疎化、⑰科学・技術の楽観的な進歩発展の限界、⑱今を生きる人々に許される我儘

と将来、などがあり、このたびの震災は、日々の生活に大きく関係し人々の生き方にも関係する多くの課題を突きつけた。

一方、平時が長く続くと、学問は細かく分化し、科学や技術の議論は日々深みに入っていく。一方で、全体を総合的に考える力が劣っていく。この傾向は建築学会の中にもあり、専門の垣根を越えて議論されることは徐々に少なくなっていく。さらに、建築学会、土木学会、地震学会などの多くの学会の壁を越えた総合的な議論はさらに行われにくくなる。しかし、我々は分野に分かれて議論しているときではない。学会員同士においても、他の学会の人たちの間においても、広く総合的に大きな議論を進めなくてはならない。

2年目を迎える2013年3月の3日間に、多くの関係者が集まり、真剣に議論を深める。

*

初日には、日本建築学会に頂いた寄付金を原資に進めていただいた若手研究者による被災地の復興支援活動の報告を行う。

二日目の午前中は、建築系の学会協会の2年間の活動報告を特別企画として行い、午後一番には土木学会小野武彦会長の特別講演、このあとの時間を使って、日本建築学会が主体として議論してきた3つの提言の発表と、これらの3つの委員会の関係者による討論会を行う。

三日日には、公募によって論文または報告を集め、建築会館ホールにて、分野ごとのセッションではなく、同一会場でそれぞれ発表していただき、盛んな議論を期待する。

建築会館の建築博物館、中庭においては、被災地の復旧・復興支援に関するパネル展示や模型展示を行う。

日本建築学会 会長 和田 章

期 日：2013年3月27日（水）～29日（金）

会 場：建築会館ホール、建築博物館（東京都港区芝 5-26-20）

プログラム（概略、予定）

- 3月27日（水） ・ 東日本大震災復旧復興支援の課題と行動方針：東日本大震災復旧復興活動支援調査研究助成プログラム報告会
（復興まちづくり、住宅復興、コミュニティ再生）
- 3月28日（木） ・ 特別企画：建築関連団体災害対策連絡会（10団体）報告会
・ 土木学会小野武彦会長講演
・ 日本建築学会の活動報告（第二次提言、復旧復興まちづくりのための提言、巨大災害からの回復力が強いまちづくり特別調査委員会報告）
- 3月29日（金） ・ 一般講演
- 3月27～29日 ・ 復旧復興支援建築展

参加費：未定

一般講演 応募要領

東日本大震災2周年シンポジウムの第3日目「一般講演」の開催にあたり、一般講演（アブストラクト）を募集します。既存の分野にとらわれない自由な観点からの講演により、今後の復旧復興、地震防災に繋がることを期待します。一般講演のプログラムは、応募いただいたアブストラクトにより実行委員会が決定します。ふるって応募くださるようお願いいたします。

1. **応募資格**：本会会員
2. **発表内容**：東日本大震災に関連する内容
3. **発表方法**：口頭発表（20分予定）とするが、ポスターセッションを設けることがある。
4. **発表言語**：日本語または英語
5. **日 程**：2012年11月30日（金）17時 アブストラクト提出締切
2012年12月下旬 採否の通知
2013年02月12日（火）17時 講演原稿（4～6頁を予定）の提出締切
2013年03月上旬 プログラムの通知
6. **アブストラクトの書式**：表題・氏名・所属・会員番号・アブストラクト・連絡先・図表等を所定の書式1枚にまとめること。 →書式
7. **アブストラクトの採否**：採否の決定はシンポジウム実行委員会が行う。以下に該当するものは不採択となる場合がある。
 - ・説明が著しく不十分なもの。
 - ・内容が商業宣伝に偏したもの（商品名の使用には注意すること）。
 - ・他者を誹謗中傷する内容を含むもの。
8. **アブストラクトの提出方法**：メール添付または郵送にて提出する。
提出先 〒108-8414 東京都港区芝 5-26-20
(一社) 日本建築学会 事務局研究事業グループ 小野寺
onodera@aij.or.jp、TEL03-3456-2057

<東日本大震災2周年シンポジウム（一般講演）実行委員会>

- 委員長 岩田 衛（副会長、神奈川大学教授）
幹事 岩田 利枝（学術理事、東海大学教授）
岡田 知子（農村計画委員会委員長、西日本工業大学教授）
出口 敦（都市計画委員会委員長、東京大学教授）
委員 石坂 公一（建築社会システム委員会、東北大学教授）
遠藤 龍司（海洋建築委員会幹事、職業能力開発総合大学校）
大橋 竜太（建築歴史・意匠委員会、東京家政学院大学教授）
倉田 成人（情報システム技術委員会、鹿島建設㈱主任研究員）

塩原 等 (災害委員会幹事、東京大学准教授)
田村 和夫 (構造委員会、千葉工業大学教授)
中島 裕輔 (環境工学委員会、工学院大学准教授)
西野加奈子 (建築法制委員会幹事、建築・住宅国際機構)
西脇 智哉 (材料施工委員会、東北大学准教授)
平田 京子 (建築教育委員会幹事、日本女子大学准教授)
森 傑 (建築計画委員会幹事、北海道大学教授)
山田 常圭 (防火委員会委員長、東京大学特任教授)
三浦 秀一 (地球環境委員会幹事、東北芸術工科大学)